

組織目標管理シート

年度	2019年度
組織名	西蒲区社会福祉協議会
組織の方針	住民が地域における福祉課題について関心を持ち、福祉活動に参加する住民主体による「お互い様の地域づくり」の実現に向け、関係機関・団体と連携、協働し「地域人材の発掘・育成、活躍の場の提供」を推進していきます。

作成日	平成31年4月24日
修正日	
評価日	令和2年4月21日

No.	目標	指標					主な取り組み内容	目標達成状況 未達成理由	評価	
		項目	H29実績	H30実績	2019目標	2019結果				補足・参考指標
1	・出会い・学び・協働を生み出す場づくりを進めます。	・男性シニア地域活動応援講座	・4回 延べ参加者数38名	・5回(述べ参加者数36名) ・活動の場への新規参加者15名 ・活動の場への参加者10名	・6回(述べ参加者数45名) ・活動の場への新規参加者15名 ・ボランティア登録を新規登録6名	・5回(延べ参加者数75名) ・活動の場への新規参加者1名 ・ボランティア登録を新規登録2名	・活動の場:多機能型拠点(marugo-to) ・区ボラセン:個人ボランティア登録	・男性シニアの応援講座の会場をmarugo-toで行うことで、活動内容や雰囲気を知ってもらい新規参加につなげます。 ・marugo-toでの活動を通し、地域活動に興味のある方にボランティア登録をしていただき、実際の活動につなげます。	入口支援としては、目標を大きく上回る参加をいただいたが、この事業の目的である、地域の担い手育成を考えると、marugo-to、ボランティア登録が全くできなかった。	未達成
2		・福祉教育の推進	・7か所	・地域座談会参加者3%増	・地域2か所 ・茶の間2か所 ・学校8ヶ所	・地域等7か所 ・学校22か所		・自治会、茶の間、学校をターゲットとし、多様性を認め合い「共に生きる力」を育めるよう出前講座を開催します。	・学校以外で7か所の出前講座を開催することができ、少しでも住民主体の地域づくりのため地域力向上につなげることができた。	達成
3	・社会的援護が必要な人を支える仕組みづくりを進めます。	・引きこもりの方等の就労支援	—	—	・活動の場への参加者1名	・活動の場への参加者4名 ・次年度取り組み支援者連絡会の準備会の開	・活動の場:多機能型拠点(marugo-to)	・ひこもりの方の就労準備前の訓練として、marugo-toでの農作業等を通し、いろいろな方との交流や働くことの素晴らしさを実感してもらい、次年度以降に就労支援機関へつなげます。	・marugo-toだけの訓練に限界を感じ、農作業ではなく、コミュニケーション力の向上を目的に新たな拠点を開設することで、3名の方が常時参加していただけるようになった。 ・次年度の移行の取り組みに一定の道筋ができた。	達成

取り組みについて(今年度重点的に取り組む内容や目標設定の考え方など)	取り組みの結果について(評価を踏まえた課題分析・方向性など)
<p>◎人口減少を踏まえ、定年退職したアクティブシニアの方をターゲットに、これまでの人生経験を活かした活動を地域で発揮できるよう支援を行い、地域の課題解決のための担い手育成を行います。</p> <p>◎昨年の反省を基に周知箇所及びテーマを絞り込むことで、依頼件数増やし「共に学び合う」ことで地域力を高め、住民主体の地域づくりにつながるよう、福祉教育を積極的に行います。</p> <p>◎CSWIに寄せられる相談の中で、引きこもり等の就労支援の対応に苦慮している。(本人の就労意欲が乏しく就労まで結びつかない。就労支援機関が少ない。)そこで、marugo-toで農作業等を通し、就労意欲の向上や生活環境の改善することで、就労機関へつながるよう行います。</p>	<p>◎今年度、事業の最も重要な、地域活動へのきっかけづくりを構築すべく、多機能型拠点を会場にした講座を数回開催し、スムーズに参加・活動することで、ボランティア登録につなげていこうと思いましたが、効果がほとんどありませんでした。 来年度は、今年度の評価を行い、入口支援から出口支援までの一連のシステム構築を再度進めます。</p> <p>◎令和2年度新規事業(引きこもりの方等の就労支援)の立ち上げのための準備として、取り組みを進めてきましたが、目標以上の取り組みを進めることができました。 来年度以降は、しっかり基礎的な基盤を整備し、生きづらさを抱えた方の支援を進めていきます。</p>